

呑川のカワセミペアとアユ（鮎）

2009年12月7日号

この秋以降、とりわけアリゲーターガー捕獲作戦以降の10月・11月は、いろいろな報告が遅くなり申し訳ありません。

先日12/12の呑川の会・定例会や、その後の懇親会でも「どうしたの？」と聞かれ、「アユやカワセミの写真が送って欲しい」と希望がありましたので、とりあえずいくつかのご報告を、何回かに分けてレポートします。

呑川のアユについては、会報でも報告しましたが、TV朝日「ステキな宇宙船地球号」の取材時、川崎漁協の山崎さんに教えられて、2009/8/23に初めてアユを発見しました。



あわてて撮影しましたが、水の汚れと光の具合で判りにくい写真になりました。それでも、この写真が呑川における初めての「アユ発見」の証拠となる写真になりました。ボラの中にアユが混じって泳いでいました。

そこで8月の末から9月末まで、明確なアユを撮りたいと呑川通いをしたところ、なんとか撮れたのが次の写真です。



判りにくいボラとの混泳でなく、アユだけの集団を探して、やはり浄国橋付近で見つける事が出来ました。

石に付着している藻類は、赤木さんの言われるような「珪藻類」のようにも見えますが、「カワシオグサ」では無いように思えます。それとも混じっているのでしょうか・・・
明確なところは判りません。

(猪口先生が詳しいと思います)

10月以降になると「落ち鮎」の時期になるので、とても心配でしたが、その直前に撮影できて
ホッとしています。

さらに、この夏の課題と心に決めていたのは、カワセミペアの発見でした。

昨年カワセミが、少なくとも呑川に2羽以上複数いることは見ていましたが、その証拠となる撮影は出来ないままでした。

しかし、カメラの同一視野内に2羽が入る写真がどうしても撮れません。
そこで、1羽ずつ、同一個体でない証拠を撮ることにしました。



これは前にも報告しましたように、下のくちばしの下部が赤いので、メスのカワセミです。

しかしどれを撮ってもメスばかりで、オスがなかなか見つかりません。
その内、複数いたのは両方ともメスだったのかと思うようになりました。

ところが思い返せば、私が昨年みたのは、オスがメスに魚をプレゼントする姿でした。
それに確信を持って、またカワセミを追い続けることにしました。

夏も終わり、もう秋口となった10月の始め、「池上橋」の下でひっそりとたたずむカワ
セミが
見えました。



蛇籠が流れて止まっているところに、小さなカワセミが見えます。
残念ながら向こうを向いています。

こちらを向かないか・・・と、辛抱強く待っていると・・・

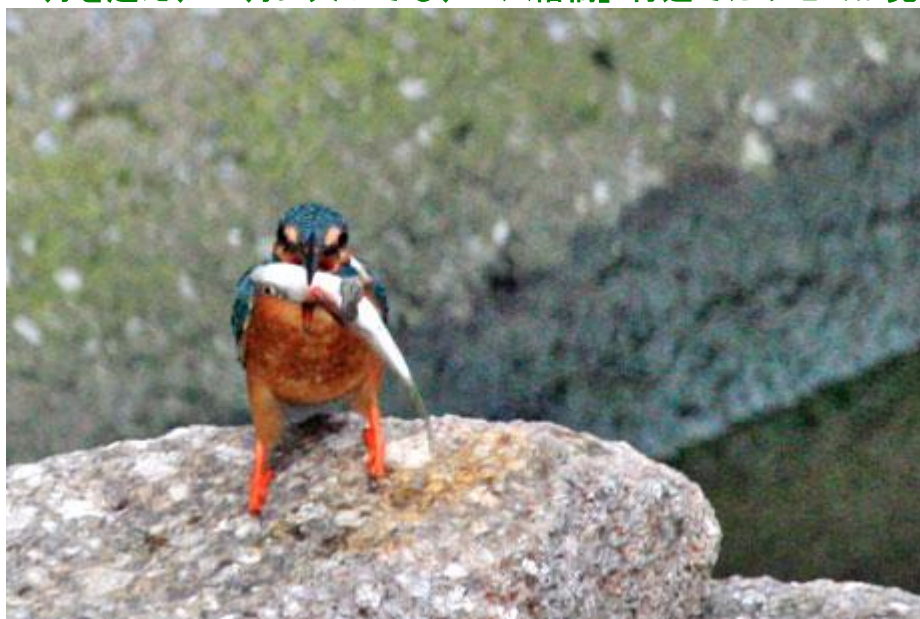


ついに振り返り、しかもクチバシを上を少し上げ、下クチバシの下部の色が見えたのです。明らかに「黒色」なので、これはカワセミのオスでした。

ようやくこれで、呑川に複数のカワセミ、それもオスとメスがいることが明らかになりました。

また、カワセミは昨年までは9月までしか確認出来ていません。今年はいつまで見られるでしょう？

10月を越え、11月に入っても、「八幡橋」付近でカワセミが見られました。



小さなカワセミからすれば、とても大きな魚をくわえています。

魚が暴れて大変なようでした。

そして先週、「呑川の会・定例会」のあった2009/12/12、「北の橋」のそばで・・・



西に傾いた冬の陽に当てられて、カワセミのメスがたたずんでいました。

これで12月に入っても呑川にカワセミがいることが判りました。

これは初記録ですが、このカワセミは、ひょっとすると冬を越え、春までいることになるかもしれませんね。

もし通年いることになれば、呑川にとってはうれしい記録になります。

私は、この様子を見て、呑川のどこかにきっとカワセミの巣があるのではないかと、予測しています。

ただ心配なのは、耐震補強の改修工事が進み、ここ数年でそれが消えてしまわないかと危惧しています。

「昔は、呑川にもカワセミがいた・・・」なんていう昔話にならないよう願っています。

「アユ」と「カワセミペア」の発見が、私にとっては今年のうれしい発見でした。

-----from-----

高橋 光夫